

メタボリックシンドロームと特定健康診査の標準的な質問票との関連について

○酒井 香名、入道 優子、南 智恵、熊谷 仁人  
(公益財団法人 兵庫県健康財団 保健検診センター)  
林 千代  
(神戸大学大学院医学研究科疫学分野)

【目的】生活習慣改善の優先度が分かれば、効果的な特定保健指導が可能となる。優先度を明確にするため、標準的な質問票（以下、質問票）を用いてメタボリックシンドローム（以下、メタボ）群と非メタボ群を比較し、メタボと生活習慣の関連を検証した。また前年に特定保健指導を受けた対象者の翌年の結果から、改善群（メタボ判定が改善）と非改善群（判定が悪化または同じ）についても比較し、特定保健指導によって差が現れるか検証した。

【方法】A事業所の25年度特定健康診査を受けた39～65歳の男性6,116名を対象とした。質問票で運動・食事・アルコール・タバコに関連し、実施の有無や頻度を問う質問項目について、メタボ群（2,043名）と非メタボ群（4,073名）に分け、検定を行った（ $\chi^2$ 検定）。次に24年度特定保健指導を受けた男性39～58歳の対象者を改善群（229名）と非改善群（302名）に分け、質問票とメタボ関連の検査データ（以下、検査データ）の変化（t検定）を検証した。

【結果】メタボ群と非メタボ群では、「1回30分以上の運動習慣あり」（ $p < 0.01$ ）、「日常生活における身体活動を1日1時間以上実施」（ $p < 0.01$ ）、「夕食後の間食・夜食が週3回以上あり」（ $p < 0.01$ ）、「習慣的な喫煙あり」（ $p < 0.05$ ）に有意差があった。しかし改善群と非改善群では質問票に有意差はなかった。保健指導レベルは、改善群（積極的支援111名、動機付け支援118名）と非改善群（積極的支援111名、動機付け支援191名）の間に有意差を認めた。検査データの変化は、改善群の体重、腹囲、血圧、中性脂肪、HDLコレステロールに有意差があり、非改善群ではなかった。

【結語】質問票上の生活習慣との関連は、メタボ群と非メタボ群では認められたが、保健指導を受けた改善群と非改善群では認められなかった。その理由として、1)保健指導による意識の高まりで2群の差が縮小した、2)質問票に現れない別の因子が存在する、が考えられる。一方、改善群と非改善群の検査データの差は認められており、2群の保健指導レベルの違いが影響していると思われる。今後、この検証で関連を認めた生活習慣を念頭に置いた保健指導を特に動機付け支援の人に行い、その影響を検証したい。

【謝辞】ご指導頂いた神戸大学大学院医学研究科疫学分野西尾久英教授に深謝します。